

第二次安芸太田町長期総合計画第4回審議会の主な意見

◆日 時 令和元年12月6日（金）13：30～15：30

◆場 所 本庁東館2階大集会室

◆参加者 別紙名簿のとおり。

◆内 容

1. 開会…伊藤会長あいさつ
2. 後期基本計画の策定に係る会議等の開催について
3. 長期総合計画後期基本計画骨子案について 資料3 資料3-1 資料3-2

◆委員からの主な意見

○少し厳しい自虐的な表現もあるかと思うのもう一つプラスの面、ポジティブな面も出してもいいのではないか。例えば中学生の英語の成績が非常にいいといったことを受けてこれを維持するというような施策があっても良い。

○わかりやすくなったと思う。文化財保護やエコツーリズムは環境面での施策になる。文化財としてまちの資源を使うという視点が入ると予想される。

○自然環境を学びの場とするするというのはすごくよい発想だと思う。ただ、安芸太田町にはヘルスツーリズムの推進協議会という網掛けで協議会を作っているが、ネイチャーガイドやSUP等のアクティビティを実践している人たちがいる場所がない。ヘルスツーリズムというのはエコツーリズムの一つの一分野になるし、ヘルスツーリズムの推進をやめるとかいうのではないが、他の物も推進をしてもらえるというか、一緒にやっていけるような網掛けの仕方を長期計画の中で書いてもいいのではないかと思う。

【事務局】確かに指摘のように、特定するのではなくてもう少し広い考え、あるいはもう少し組み合わせ方を考えるとよい。

○地域商社あきおおたでヘルスツーリズムの事務局を持っているが、田舎体験とかあるいはSUPとか観光ガイドとか、全て含めた意味合いで使っている。場合によってはその名前も見直しの必要がある。

○すごくわかりやすくてできているとは思いますが、これをするためにどうやっていくのという中身を知りたい

○人権尊重のまちをつくりますと、掲げてはいるが、ある方が率直な意見を言った時、いらぬことを言うなど言われた方もいる。そういうことを言われたら、U・Iターンで帰ってきた方に投げかけられると本当に傷ついて、ここで子育ても定住もしたくなくなる。

○ICTの活用、Society5.0の時代にどう踏み込んでいくか考えなければならない。情報共有し、複数の課にまたがって実行しないと、断片的で今まで通りになると思うし、生産性は上がってこない。

○例えば今の若者がスマホを見て、安芸太田町のリーディング施策は何か、施策は商品という考え方を持つこと大事。

○施策の評価について、住民も評価等に関われる機会をもう少し増やしてもらえればいい。

○各施策自体が何を狙ってどんな理由でここにあるのかということが読み取れないと、この施策自体が何を狙っているのかが読み取りにくいと思う。各課の仕事になると思うが、各事業が目指す住民の生活状況にどのようにつながっていくかを明記するべきだろうと思う。それに関連して、事業はなぜするのかという理由も必要だと思う。前回の反省からこれはこうかえた、とか、資料に基づいてこういう事業をする、というきちんとした根拠が示されるべきだろうと思う。また、目標値は、活動指標と成果指標、定量目標と定性目標の設定を適切に使い分けて設定しなければならない。

○定性目標を含めることできちんとした評価になり最終施策評価の中に住民が入っていく時に、ちゃんとこれはできている、とか、こういう回数はできているけど定性のほうはまだまだではないか、といったきちんとしたチェックにつながるだろうと思う。

○策定ワーキング会議とはどうゆうものなのかというのが知りたい。

【事務局】役場若手職員を中心にワーキング会議を開いて後期基本計画を、今どういう問題があってどういうことを取り組むべきなのかという話し合いを重ねている。

○本当に私たちの声が入っているのか、アンケート調査をした結果ははいっているのかという疑問が多々残った。

○SDGs を踏まえてゆうのであれば、安心して子育てをしていきたい、誰一人残さないという基本理念に基づいて行っていくのであれば、教育施設等を統廃合していくというのも今一度立ち止まって考えていくべきではないかと思う。

○中学生の意見もパブコメ募集時に掲出するべきではないか。子どもたち、小学生・中学生・高校生をこれからも育てていくのであればそういう意見の方が大切であったりする場合もある。

【事務局】ある程度まとめた形で中学生の意見を HP の方で掲載しながらパブリックコメントを募集していきたい。

○山県郡医師会としての話だが、圧倒的に開業医の方々が高齢化している。「地域で安心して暮らせる地域医療サービスを提供します」に書いてあるところは公的な機関の話で、数が少なくなって開業医の先生方の支援が必要ではないか。もう一つ、この地域で住民の数を増やして子どもの数を増やすという意味では、小児科、産科がないことに対する不安の解消とあるがそれに対する解決策がなんら今のところできていない、出産、子育てに希望が持てるような言葉をいれていただければと思う。

○教育に関する施策の部分について、小中学校では町からの非常に手厚い支援のおかげで子どもたちが地域に、郷土に誇りを持って何とか貢献していきたいという気持ちを持った子どもたちが育ちつつある。

○一方で課題にもあるように、小規模校であるので部活動についての多様性といったあたりは一つ悩みの種である。例えば野球部のチームが成り立つかどうか、というのが毎年課題になっている。

○教育の質については、町内小中学校とも、算数、数学が今非常に課題である。場合によっては数学の指導力がある教員を連れてくるといったような思い切ったことが必要になると思っている。

○教育の一つの課題の部分になるが、現在 ICT 整備をどんどん進めていただいております、タブレットの活用も各学年 1 人 1 台持って授業にのぞむことができるようになっている。学校内の中の wi-fi の環境も整備していただいている。一方で生徒指導上の課題であるが、とりわけ SNS をとおしての犯罪に巻き込まれる可能性は大きな課題としている。あわせて、経済的に非常に厳しい家庭の子どもたちをどう学校教育として、どう支援していくかも引き続き課題になると思う。

○ヘルスツーリズム事業の中で、教育旅行の人数も増えている、もちろん観光消費額を増やすことも大事だが、民泊については、だんだんと数が増えてくればくるほど、受入家庭が疲弊する部分も出てくる。難しいところではあるが、この数字だけを追い求めていくとは少し違った支援も必要になるのではと感じた。

○数をただ単純に増やすことだけというのが経済波及効果を上げることではないのかな、ではどこで評価していくのかというのは難しいところではあるが、このヘルスツーリズム事業というのを推進していくうえでもう少し違った視点も必要になってくるのではないかと感じた。

○子育てしやすいと感じる割合は目標値より少し少ないのが残念だと思った。長期計画も子育てしているお母さんたちが手に取って見れるような冊子になればいいと思った。

○ヒアリングもわくわくフェスタに対してしていただいたが、それはわくわく実行委員会だけの声であって、実際にいろんな地区で子育てしているお母さんの声は拾えてないので、支援センターとかに出向いてお母さん方の意見を聴く場を設けるなどしていただければと思う

○町の魅力を内と外につなげる仕組みの構築ということだが、地域住民が魅力を知ることとはどういうことか、掘り下げて説明をしてほしい。

【事務局】 普段当たり前のように過ごしていると分かりにくい、見つけにくいものというのが実は大きな町の魅力になることを住民の方にも知っていただければ、そこから広がりができると考えている。

○水路の流れる水が非常に汚い、下水道の加入率が現在 84.5%、88%ということだが、そろそろ 100%

にしてはいいのではないか。100%は無理にしてももう少し高い目標値をもって進んでもらいたい。

○町の職員の定数の目標値、入っているのであれば教えていただきたい。

【事務局】行財政運営というのがある。具体的に定員のことは書いてない。これは第3次定員適正化計画が進行中であり、その計画の進捗により第4次を作成することになる。同じような団体に比べて職員数がまだ多いという現状があるので引き続き、定員適正化には取組んでいく。

○道の駅の再編の整備計画はあったが、もう少し計画の内容を詳しく明確にしてほしい。

【事務局】道の駅のハード的な部分の見直しが必要だが、それよりも地域経済を循環させていく中で、その道の駅がどのように活用できるかというのを積み上げていきたいと考えている。その部分を早急にやらないといけないのだが、できるだけ今回も計画の中に落とし込める部分は落とし込んでいきたいと考えている。

○今回の合併特例債、5年延長という話がでていますが、この特例債に関係と長計とつながりがあるのか、あればどうゆうことがあるのかということをお話しいただきたい。

【事務局】合併特例債については、5年間延長されて、新町建設計画にのっている事業を実施する場合に合併特例債という起債が発行することが可能となるということで、各種事業の中で過疎債や他の起債が使えない場合に7割が交付税でバックされるので有利な財源として合併特例債の活用も検討していきたいと考えている。

○皆が一様に高齢化しシニアクラブの解散が続いている。人数を増やしていくためにはどうすればいいか、社協としての各課との調整を進めていきたいと思う。

○魅力ある学校教育という中で、英語の検定の補助とか、ALT活用事業については非常に結果が出ているのと思っているし、今後もその推進をお願いしたい。

○ICTの整備についても、タブレットの配置についても重点的にお願いしたいと思う。

○安芸太田町は85%が事実上森林であり、化石燃料に代わりうる貴重な資源なので、地域性を活かした生活スタイルを推進してもらいたい。そうすることで山に投資する人を増やし、山に感心を持ってもらいたいと思う

○リーディング施策についてのKPIはこれからになるかと思うが、いくつもの施策を束ねているということで、そのリーディング施策の評価指標はその他の活動の上位の評価指標となるので、KPIの関連図を作って分かりやすくし、これが当然論理的につながるので、どのアクション、どのKPIが上位に影響するのかが明確になると思う。

○KPIについて、何かを何回というのは分かり易いが、率や金額というところはその測定の方法について指標と定義、誰が測定するのか、というところを明確にしてもらいたい。

○評価指標の理解が出来てないとなかなか有効策をとれない。今回5年経ってみて、10%足りない、20%足りないということがでていと思う。あるいはもっと何百%というのがあると思う。何百%というのは目標値そのものがおかしいと思うので、今度の計画の中には評価指標の見直しの方法というのもいれていただければと思う。

○目標がすごく多くある、一つの項目に対して10個ぐらいの目標があつたりするが、この中で特に頑張るものとか、優先順位を決めて進めていった方が、結局全部があいまいにならないと思う。

○この計画を、もっと分かり易く、もう少し分量が少なくてもいいのではないかと思う。

○民生委員なので社会福祉協議会、福祉課、あんしんとか連絡を取りながら、お年寄りの見回りを主にしているが、やはり年々一人暮らしの方が多くなり、高齢者が多いので、この横文字の言葉を見たら何て思うかと思ひながら聞いた。

○一人暮らしの方は病気になったらどなたと連絡取るかかわからないので、今、社会福祉協議会の皆さんと相談しながら、「命のバトン」というような個人的な薬はどこ、病院はどこ、だれに連絡するとかいうのをある一定の場所に置いて、誰が見ても分かるような手法をとりたいと計画している。

○女性会の活動では、環境に関する古紙の回収や防犯に関する講演とか、会員の親睦等を行っている。これらの活動を35の施策とどうつなげていくか考えてみたい。

○農業基盤を維持する体制が構築されています、といいながら、現状と課題の部分で、高齢化の進行とあいまって農業産出額は大きく減少し、遊休農地の拡大等が懸念される状況にあるとしている、相反するような意味の言葉だと思うので訂正をお願いしたい。

○今回個別施策に何一つ目新しい事業があがっていない。「継続は力なりと」理解している。

ただ数字があがれば良いのかもしれないが、それぞれの施策に対してこの事業が本当にそれなのか、という疑問もあるし、十分検討を今後していきたいと思う。

○学校教育や生涯教育を通して、最も大切なことは、安心、安全だと思う。この骨子案とか説明を聞いて、どちらかというと不安になってきた。言葉づかいや表現の方法で町民を安心へと導くようなそういった配慮があればありがたい。全体的に言葉が固い。分かり易く、優しく、見たくなるように、していただければと思う。

○細かいデータなどは別冊にしてでももう少し分かり易く会長が言われたように、吹き出しをつけたり読みたくなるような工夫をしていただきたい。

○商工業について町としても力を入れていると感じている。今から高齢化が進んで過疎に歯止めがきかない、その中で私も最初は商工会の利益のためだと思っていたが、利益だけではいけない、各種団体、農、商、林、工連携してお互いの立場を考えながら、ラグビーのワンフォーオール、オールフォーワン、1人はみんなのためにみんなは目標のために、目標を達成するために自己犠牲ということをやったということ。だから町民あるいは組織の助ける精神で進めていっていただきたいと思う。

○これからやはり ICT の活用をどうやって広めていくかということが出てくると思う。この計画の分厚い冊子に QR コードを貼るなどして、若い人達がスマホで見る。例えばアンケートでもそう。紙ベースで配るのではなく、QR コードでアクセスして、回答しそのまま集計するなど安芸太田町に ICT の活用を広めて最終的には Society5.0 にどうつなげていくかを考えてほしい。

○今までより見やすくなったが具体的な施策が分かりにくい。

○行財政関係、職員定数の話もあったが、この中で人件費の削減というのが入っていない。人件費の抑制を行政側としてどのようにしていくのか検討してもらいたい。

○職員の人材育成とあるが、どのような人材を育成するのか。具体的なことを書いておかなければいけないのではないかと思う。もう少し元気が出る言葉、例えば、病院に関していえば、地域医療がなくなったら困る、そのためには行政としていろんな面で支援することをきちんと書き込む必要があると思う。

○この骨子案に対する熱がほとんど伝わってこない。本町のおかれた厳しい環境に立ち向かっていくという覚悟が伝わらない。

○「ほどほど」とか「ほどよい」という表現で、感覚のずれというのはこの時代認識と町のおかれた厳しい環境に対する認識は、かなり私どもと意識が対比しているという印象を持った。

○今回の長計の後期計画については、起き上がり計画、本町がほんとに元気を出していく、夢がある希望がある町にしていくというような起き上がり計画でなければならないと思うが、そのための表現、内容はあまり伝わらないというのはなぜなのか。

○そのためには、なんでもやるというのは原則。なんでもやる、ない物は作っていくと、改正が必要なものについては思い切ってやりかえる、というような覚悟をこの後期計画の中には載せてほしいと思っている。

○特に序論の中、あるいは目指す将来像について、しっかり書き込んで伝わるような後期計画にしてほしいというような思いがする。仏を作って魂が入らない、入れないような計画ではなかなか町民には伝わらないということで、更なる汗をかいて欲しいということで、期待している。

【会長】各委員からの意見を反映したうえでもう一度素案を仕上げただければと思う。その当該の施策と目標等の関連に対して、本当に効果、寄与するかどうかという視点で組み立てが必要だし、必ずしも定量データだけでなく定性的なものもありうるということなので、このあたりの工夫が必要だと思う。5年後の完年度の目標だとどうしても無理な数値があるので5ヶ年間の累計というような指標もありうると思う。このあたりもあわせて検討してもらいたい。

○役場の方々には町民の幸せを導くプロになっていただきたい。よく皆さんから聞くのは、不安があって電話をしてもたらいまわしになって誰も具体的に答えてくれないという意見を聞く。

これに関してもっと聞きたい人は、分からない人はこの課の誰々にお電話くださいとか、そういう人を感じるような文章を載せてもらいたい。

○教育に関して、英語はいうことはないとしても、国語、数学・算数は小学校、中学校で基礎中の基礎をするので町内の子どもたちが高校、大学にあがった時に何の問題もないようにしてもらいたい。学校関係者の方によろしくお願ひしたい。

○個別施策の活動指標の欄に町民の健康づくりリーダーの育成という項目を追記してほしい。

書面による意見【抜粋】

(※第4回審議会終了後、委員から下記のようなご意見がありました。)

(特に重要な点)

- ① 個別施策（インプット）と住民の目指す姿（最終アウトカム）の繋がりがわかるようにしてください。
- ② 個別施策や成果指標の設定根拠がわかるようにしてください。
- ③ 町民参加型の評価スキームの設計をより明確にしてください。
- ④ 評価スキーム時代を毎年見直せる設計にしてください。

(施策全体)

- ① 展開方針と取り組み内容や成果指標、目標値が不一致でありロジックモデルがイメージできない。
- ② 各課の取り組みが後期計画でもそのまま継続されている。前期計画の反省や改善が見られない。前期計画のどの部分が良くて継続し、どの部分は成果が見られず変更したかわかるようになっていくべき。
- ③ 定量目標ばかりで定性目標がなく、事業実施回数や参加人数を達成すればよい甘い目標になっている。目標には定性・定量を明記し定量目標には積算根拠や理由を明記すべき（事務局ではなく事業を作成した各課の責任だろうと思う。そのために施策の評価過程に工夫をしたと読み取れるが、うがった見方をすれば各課は評価を忌諱する可能性が高い。評価過程のロードマップや実行責任を

より明確にするべき)

④ 目指す住民の状態と個別施策の繋がりが理解できない。ロジックモデルやセオリー・オブ・チェンジなど活用し、インプット・アウトプット・アウトカムなど明確にするべき

●リーディング施策について

① 町内には文化財保護法により国宝と同等レベルに評される「特別名勝」が存在する。エコツー推進法に合わせて文化財保存活用計画の策定も実施するべき。

② リーディング施策の成果指標は本当にこれでよいのか？各課の見本になるようなロジックモデルやセオリー・オブ・チェンジを作成してはどうか？

●施策1 安芸太田に住みたくなる人を増やします

① 不動産会社などとの連携を図るべき。町内不動産事業者のバナーを空き家バンク等に掲載するなどできるのではないかな。

② 上殿未来会議の取り組みはモデルになると考え、再三指摘しているがどのように考えているのか？成功モデルや自立モデルにこそ支援し広げる施策をするべき。成果があがっていない取り組みを強化するべきではない。定住は居住後も重要であり住民理解をえる手助けにもなるのではないかな。

●施策3 乳幼児期のあたたかい子育て環境を整えます

③保護者の意見を取り入れる場づくりを要望したがどのようになったか？

●夢と地域愛を育む学校教育を推進します。

④ふるさと教育・自然を生かした教育への要望が強かったSDGsの4番目の目標でも求められる項目であり、現状維持では不足と考える。指標を含めて見直すべき

●施策21 自然環境の保全に取り組みます

① 生物多様性・希少な動植物を含む、豊かな自然環境を保全するのであれば、クリーン太田川のごみ拾い・アダプトは無意味。

② 町（教育委員会）として希少動植物の把握がなされていない現状を反省し、モニタリング調査、盗掘等の対策、町内レッドデータリストの作成等が必須。担当課に生涯学習課など加え再検討するべき。

③ 環境分野であるならば環境省の提唱する地域循環共生圏も考慮に入れ言及するべき。

●施策32 ヘルスツーリズムを核とした交流人口の拡大による経済波及効果を図ります

① 観光振興基本計画はどうなっているのか？長計での位置づけを記載するべき。

②本町の観光施策の問題点はプロモーション不足ではなく、現実と乖離したブランディングによる一貫性のない状態にある。観光振興基本計画にある戦略会議などを早急に設置し、現状を踏まえ、安芸太田のツーリズムを再構築するべきである。

③観光施策は住民アンケートによりもっとも要望が強くなった項目であり、住民の不満がもっとも

高くなった分野である。しかし、主要事業や目標値が現状維持であり容認できるものではない。繰り返しになるが担当課は再度事業の設計を行うべきである。

(施策評価)

- ① 施策評価は協働プロセス重視型の仕組みの肝心の部分になり、後期計画の最重要部分である。計画内でさらに詳細なスキームの設計と、実施責任者を定めるべき。
- ② 情報共有が重要であり、わかりやすく伝える工夫（可視化）が必要。広報への定期的な掲載や課の自慢。住民向けにプレゼンテーションの実施、YouTubeなどの動画作成など伝える工夫をするべき